

(別紙様式2)

## 普及指導員調査研究報告書

所属名：長門農林事務所

担当者名：中村 美子

課題名	イチゴ品種「かおり野」の現地特性把握							
1	調査研究チームの構成 農業部野菜班員（中村、品川、加藤、金重、久村）							
2	課題の目的 平成24年度から現地栽培実証が始まったイチゴ品種「かおり野」について長門市における生育状況を把握し、今後の栽培推進の一助とする。							
3	調査研究期間 平成24年							
4	調査研究の対象地域・場所 長門市日置（3カ所） 長門市油谷（1カ所）							
5	調査研究方法の概要 (1)生育調査（20株調査） ・草高、第3展開葉の葉長等を調査 (2)収量調査 ・出荷数量を調査							
6	結果の概要、成果（または中間報告） (1)生育調査 草高の推移（cm）							
	地域	生産者	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	日置	OK	21.7	33.4	36.1	35.6	22.1	29.2
	日置	O	25.9	37.4	41.3	38.0	34.2	39.6
	日置	T	20.7	28.6	32.5	28.4	24.2	28.5
	油谷	N	17.7	37.2	44.0	42.9	40.9	44.7
	葉長の推移（cm、第3展開葉）							
	地域	生産者	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	日置	OK	26.5	32.5	35.3	31.5	26.0	26.0
	日置	O	31.3	37.4	35.2	28.6	25.7	31.8
	日置	T	24.5	28.1	32.1	29.4	21.8	24.8
	油谷	N	18.9	37.6	39.6	32.6	33.8	40.7
	・「かおり野」は生育が旺盛であり1～2月は低温のため伸長が劣ったが、株が大型となることが確認できた。 ・草高30cm以内で管理することを目標としたが、それよりも大型になる傾向があった。							

(2)収量調査

出荷量の推移 (kg/10a)

地域	生産者	11月	12月	1月	2月以降
日置	OK	24.9	170.3	870.9	調査継続
日置	O	17.0	717.7	1,089.7	〃
日置	T	2.8	87.6	844.8	〃
油谷	N	35.7	261.0	558.6	〃

- ・「かおり野」は苗の低温処理等、特別な処理を行わなくても単価が安定して高い年内に出荷できることが確認できた。
- ・生産者T氏は他の3名に比べ年内収量がかなり少ない。①定植始めから終了までに2週間を要しており適期定植をのがした株が多い可能性が高いこと、②定植後うどんこ病対策のため葉数を少なくしていたこと、が悪影響をもたらしたと考えられる。

7 今後の問題点

- ・今年度から現地での栽培実証が開始されたが、山口県での「かおり野」栽培管理技術が確立されていない。今後も継続して現地実証を行うとともに農林総合技術センター、他農林事務所、JAと連携し山口県での栽培管理技術の確立を図る。

8 普及活動上の留意点

- ・草高30cm以内を目標としていたがそれよりも大きくなる傾向があった。
- ・草勢が強すぎると病害虫、食味や着色が劣る果実の発生を助長するため、草勢を抑える栽培管理（特に年内、春先）が望ましい。ただし草勢を抑え過ぎると減収となるおそれがあり、適正な草勢を見極める必要がある。
- ・適期に定植しないと年内収量が減収となるおそれがあり、適期定植を推進する。

※ 報告書は図表、写真等を含めてA4判で2ページ以内にまとめること